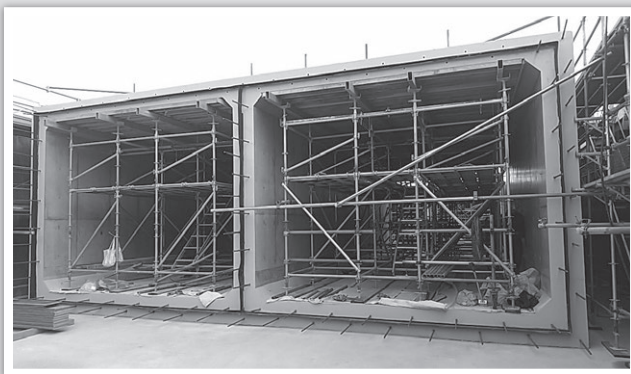


矢作川総合第二期農地防災事業 明治本流(上流部)耐震化対策 上郷工区その17建設工事

本地区は、愛知県の中央部を貫流する一級河川矢作川の中下流域を中心とした安城市外7市にまたがる5,441ヘクタールの水田農業地帯で、水稻を中心に水田の畑利用による小麦、大豆等の土地利用型作物のほか、畑での野菜や果樹など多様な農業経営が展開され、「日本のデンマーク」と称された先進的農業地域であり、自動車産業など商工業が盛んな地域でもあります。



本地区の基幹的な農業水利施設は、国営明治用水土地改良事業（昭和22～32年度）により明治用水頭首工が、また、国営矢作川総合土地改良事業（昭和45～63年度）等により幹線用水路等が造成され、農業用水はもとより工業用水や水道用水を併せて安定的な供給が図られてきました。

しかし、本地区周辺は東海地震防災対策強化地域、東南海・南海地震防災対策推進地域に指定されるなど、大規模地震の発生する確率が極めて高い地域であり、基幹的な農業水利施設が損壊した場合、農業生産のみならず家屋や重要公共施設等への二次災害が想定され、地域に甚大な被害を及ぼすおそれがあります。

このため本事業において、基幹的な農業水利施設の耐震化対策を行い、大規模地震の発生による災害を未然に防止するとともに、農業用水の安定供給と農業生産の維持及び農業経営の安定を図るものです。

本工事は、地区の大動脈である明治本流のうち約60mの区間について、耐震性を備えた現場打ち2連ボックスカルバートの構造で更新するものであり、通水を確保しながら施工するための仮設計画を綿密に立て、令和5年4月末時点で主要な工事が完了しました。今後、工事の完成に向けて仮設の撤去及び復旧工事を進め、無事故・無災害で竣工するように職員一同努めていきます。

監督職員からのエール

本工事で改修する明治本流は農業用水のほか工業用水も通水しており、非かんがい期であっても4.4～5.0m³/sの通水を確保する必要があります。仮廻し水路は鋼矢板により既設水路に隣接して設置しますが、既設水路との接続に当たっては、左右岸の通水切替えを行わず限られた期間内に施工する必要があります。

そのような中、田栗現場代理人には他工事との調整も行いつつ、度重なる変更にも柔軟に対応し期間内に確実に施工していただきました。

また、近接するトヨタ自動車配送センターや周辺住民の方々とは、コミュニケーションを図りながら良好な関係を築いていただき、苦情もなく本体工事が完成致しました。原形復旧や後片付けが残っていますが、引き続き無事故無災害で完成することを願っています。

現場代理人

(写真左) あおみ建設株式会社

現場代理人 田栗 義久

監督職員

(写真右) 矢作川総合第二期農地防災事業所 豊田支所

技術専門官 田中 孝典



(注：令和5年5月受稿。本工事は令和5年5月に完成しました。)